

地震の発生 二〇〇九年一〇月十八日（日曜日） 午前七時五十五分

震源地 新潟県中越地域

地震の規模 マグニチュード六・八

山古志地区の震度 六強

最初の場面となる場所 竹沢地区一時集合場所（下）

気温 約十五度 くもり

課題 発生直後の集落内での安否確認

状況設定（ナレーションも可）

保育園児の道子と一緒に農作業中に地震に遭遇する花子。家に戻る道すがら、下地区の一時集合場所に立ち寄る。電気も携帯もつながらない中で、近隣の人と助け合いながら家族の安否を気にかける。竹沢集落では自主防災組織で決められた役割に従って、全住民の安否確認作業が始まる。

【ストーリー】

登場人物

長岡花子（ながおか はなこ） 山古志竹沢在住 主婦

長岡道子（ながおか みちこ） 山古志竹沢在住 保育園児

星野 防災副会長 竹沢地区防炎会副会長・下地区一時集合場所の責任者

五十嵐 防炎会長 竹沢地区防炎会長・上地区一時集合場所の責任者

飯田 避難誘導班長 竹沢下地区避難誘導班

東 情報伝達班長 竹沢下地区情報伝達班

佐藤 救護班 竹沢下地区救護班

避難者男A

避難者女B

避難者男C 竹沢住民。家に足の不自由なお婆さんがいる

避難者男D

避難者女E

避難者女F

一時集合場所に避難してきた避難者（数名）

FMながおかアナウンサーの声

十月の日曜日の朝、花子は保育園に通う四歳の道子と一緒に家の近くの段々畑で野菜の収穫をしていた。花子は少し小高い段々畑から見える山古志の風景がとても好きだった。霞のかかった山々から顔をのぞかせる家々の屋根が、とても幻想的な風景だ。そんな山古志を見ながら、道子も母の野菜運びを手伝っていた。

そのとき。

花子 ミチ、重かったら無理しなくていいのよ  
道子 ママ、おもーい  
花子 だから言ったじゃない。持てるわけないでしょ。もう  
道子 うーん  
花子 はい、じゃあこれを荷台に積んで、帰りましょ  
道子 はーい

いつもののどかな雰囲気。すると、突然、ゴーという大きな地鳴りとともに激しい揺れが花子たちを襲う。

道子 キャー、ママー  
花子 ミチ、こっちおいで  
道子 こわいよ、こわいよ  
花子 しゃがんで！しゃがんで！

積んだ野菜かごを放り投げて、近くのアスファルト道路へ這って避難する花子たち。段々畑はヘリの部分が崩れ、それに伴い道路もひび割れ、所々崩れてしまっていた

#### 【花子のモノローグ】

私は長岡花子、山古志の竹沢集落に住む主婦です。あれはまだ畑で収穫した野菜を、道子と一緒に乗ってきた軽トラックの荷台へ運ぶ途中のことでした。突然、大きな地鳴りとともに、立っていられないくらい大きな地震が来て、崩れやすい畑よりも、地盤のしっかりしたアスファルトの道路へ逃げ込もうと

したけれど、立つこともままならないほどの揺れと、小さな道子のことが心配で、ただ道子を抱えてしゃがみこむのがやっとでした。大好きだった畑から見える山古志の風景が、また襲ってきたあの地鳴り音「ゴゴゴーーーー」とともに崩れ去ってしまうような恐怖に襲われ、5年前の地震のことを思い出して恐怖に震えました。

やがて揺れがおさまると、大きな不安にかられました。うちの家族は大丈夫だろうか？家にはお爺ちゃん、寝たきりのお婆ちゃんがいます。お婆ちゃん一人では歩けないから大丈夫だろうか？お父さんは長岡市内に仕事に行っているけど、ビルや大きな建物、車が行き交っているのでも心配でした。息子の市郎は学校のスポーツ行事で朝から登校しているし、とにかく不安になって、家まで這ってでも帰らなければと、とるものもとりあえず車を置いて、道子と一緒に家に向かいました。

私たちは家に戻る途中で、沢山の作業小屋が傾いたり崩れたりしているのが見えました。アスファルトの路面にもところどころ大きなヒビが入っていたし、山肌に見えていた美しい段々畑も、赤土の斜面が丸裸になり崩れていました。何よりも私たちが不安にしたのは、携帯が全く繋がらないことでした。これから私たちはどうなるのだろうか。家族に無事会えるのだろうか、不安な事が次々と頭に浮かびました。

その頃竹沢集落の下地区では、住民が家々の前に出てきていた。

「またきたか。」「いやあ、とにかく凄い地震だったいや。」「いや、地震じゃないかもしれないね。爆弾か何か落ちたのかと思っただ。」「住民たちが口々に状況を報告し合っていた。

避難者たちは自宅の敷地から出て、比較的道幅が広く、スペースのある場所に集まり始めた。

避難者男A　すごい地震だったが、いったい状況はどうなっているんだ。誰か知っているものはいろるか。

避難者男C　お前さんところもそうだと思うが、突然電気が消えてテレビが映らなくなったぞ。あわてて電話で連絡取ろうとおもったけど、ぜんぜん繋がらなかった。携帯も全くだめだ。いったいどうせばいいがら？

避難者女B 確か前の地震の後の避難訓練で、防災会長やら避難誘導班やら決  
めていたよな。でも誰がどの担当だか忘れてしもた？誰か知らんか  
の

そこへ防災副会長の星野が現れる

星野（防災副会長） お前さんたち大丈夫か。いやーすごい揺れだったろも、  
この間の防災訓練でやった段取りで動かねばならんだろ。でもなん  
だかほとんど忘れてしもうたて。お前さんたち悪いけど協力してく  
んねろうか。とにかく落ち着いて行動せんばのう

避難者男A こんな時に落ち着けなんていったって無理だつて。家の者も出か  
けておらんし、誰が怪我しているか解らない時に落ち着いてなんか  
いらんねえろ

避難者女B まだ五、六軒しか人が集まっていないのに、どうやって行動する  
がら？集まるなら集まるで、どこへ行けばいいのか知らせねば意味  
がないて。周りの無事を確認するのが最初らて

星野（防災副会長） 確かにそうだ。俺たちがまず初めにやらないといけない  
ことは、家族と隣近所の安否を確認することだ。ひとまず近所の家  
に外から声かけしてみようて

避難者男C そんなことより早く避難場所を指示してくれて。家に足の不自由  
な婆さんがいるんだ。早く場所を教えて避難させないと逃げ遅れる  
だろ。家の荷物も運ばないといけないし

避難者女B いや。避難する場所もわからんままみんなが右往左往するかもし  
れね。まずみんなの無事を確認してから避難場所を決めて行動した  
ほうがええつて

避難者男A そうらな。周りはみんな親戚みてえなもんだ。一回りすれば誰が  
いねえかわかるて

星野（防災副会長） みんなにバラバラ回ってもらっても確認が出来んだろ。  
情報伝達班ちゅうのを決めとったはずだがの。彼らに各地区を回っ  
てもらい、避難場所を知らせることにしよて。もう少しここに居て、  
人が集まるのを待とうて

避難者女B 救出作業のほうが先でしょ。この前みたいに家具の下敷きになっ  
たりして閉じ込められている人がいるかもしれないじゃない

星野（防災副会長） 余震で家が崩れることもあるみたいだ。一人で出てって巻き込まれたら危ねえて。確か役場がつくった防災マニュアルみたいなもんがあっただろ。だれか知っているもんいるか？

避難者男A こんな時にマニュアルだとか言っているられないだろ。そんなもんどこにあるんだ。避難場所を決める前に、家族全員の居場所や状況が知りたいんだて

避難者男C そういえば家の婆さんが言っていた。この辺で一番地盤が安全なのは神社や地藏様のある場所だって。昔からある場所なので地盤がしっかりしているはずだと。そこへ移動したほうが年寄りもみんなも集まってくるはずだて

星野（防災副会長） 確かにそうらな。前もみんな神社に集まっていたな。だども下地区の一時集合場所は、駐在所の横の駐車場だったと思うが、まずそこへ行ってみようと

避難者女B 確か市の取り決めでは竹沢保育園だったと思うけど・・・

避難者男A そりゃ予備の避難所だぞ。あと竹沢の集落センターは、耐震性が低いから、避難所にはならんて聞いたれ

避難者女B 確かTVで台風が近づいていて、午後から雨が降るって聞いたれ。この際雨風がしのげればいっけ、集落センターにしようて

避難者男C なんだかんだ言っても、歩いて支所まで行ってしまえば済むことじゃねえか？

避難者女B 危ないて、お前さんだけ行って、もしもの事があつたらどうするんだて。一人で勝手な行動取るもんじゃやないて

避難者男C 大丈夫らて、谷ひとつ渡れば支所らねかて。ここにいたって何の情報もねえ

星野（防災副会長） お前さん支所に行くくらいなら、申し訳ないけども上の一時集合場所に行って様子見てきてくんねえか。区長が衛星電話を持ってるので。それで連絡すれば支所からいろんな情報が聞ける。俺たちの被害状況も伝えることができるっけ。俺らもあとからそっちいくっけ

避難者男C うちの婆ちゃんが心配だろも、車ですぐらっけ、ちっと行ってくるて。婆ちゃんは家のものに任せてくるけどよろしく頼むな

星野（防災副会長） 道路が崩れているかも知れんから、歩いて行ったほうがいいれ

避難者男C そりゃ難儀なことら・・・しょうがねえ

避難者男Cは歩いて上の集会所へ向かった。

防災副会長は近くの住民たちへ安否確認と臨時避難場所を呼び掛ける

星野（防災副会長） みなさん、聞いてください。これから下地区住民の安否

確認を隣組単位で行います。その前に、ここで集まっていますどこへ集まったらいいか解らない人が出てしまうので、それぞれ確認が済んだら駐在所横の駐車場に報告に来てください。防災訓練で決めています。おいた一時集会所だっけ。全員の安否確認が済んだら、状況を上の区長に報告します。それから区長に衛星電話で支所に連絡してもらいます。じゃあそれぞれ隣組で安否確認を始めてください。お願いします。

下地区の住民たちは不安な顔をしながらも、前回の地震の教訓があるためか、整然と行動し始める。お年寄りの中には再び家に入るのをためらっていて、外に出たまま不安そうにしている者もいる。

#### 【花子モノローグ】

私たちは道が所々崩れていたの、畑に来る時に乗ってきた軽トラックはそのままおいてきました。この村には車を盗む人なんかいませんからね。道子と一緒にようやく家にたどり着いたら、心配したお爺ちゃんが家の前で待っていてくれました。幸いなことに、私の家は前回の地震で基礎から建て直したので、しっかりしていて、被害はほとんどありませんでした。家は大丈夫だったけど、家の中のタンスや食器棚は中身が飛び出てグチャグチャでした。寝たきりのお婆ちゃんは、お爺ちゃんが朝食を食べさせている時だったけど、お爺ちゃんが倒れそうな物は押さえてくれたこともあって、怪我はしていませんでした。五年前の地震を経験していなかったら、お爺ちゃんもそんな行動はできなかつたと思います。家の片付けも大変だけど、うちは寝たきりのお婆ちゃんや、お父さんのこと、市郎のことが心配で、ただおろおろするばかりでした。

駐在所横の駐車場には、防災副会長の指示で、住民たちが家々に情報を回し、徐々に下地区の住民たちが集合してきた。

避難者男A 集まってきたはいいが、副区長さんはどこへいるんだ

星野（防災副会長）　おう、ここだここだ。安否確認の結果を報告してくれ。

集まった各役員から安否確認の結果が報告される。

避難者男D　さつき声かけに回ったら佐藤さん家から返事がなかったっけ心配  
らて。だれか知らねえろか

避難者男A　斎藤さん家も心配ら。あそこの家は若いもんが日中出稼ぎに出て  
いるっけ家には年寄りだけら。2人とも足が不自由らっけ、ここま  
で運んでこないと避難できねえろ

星野（防災副会長）　わかった。これだけの人数が集まれば何とかなるろ。呼  
び掛けてみるて

だれか力のあるやつ、手を貸してくれや。斎藤さんちのじっちゃん  
とばあちゃんをここまで運んでほしいんだ。

集まった人の中から助力を申し出る声  
わさわさとやり取りする声がかぶる

避難者男D　安否確認が終わった家と終わっていない家とで区別がつくように  
しといたほうがよくねえか。何か目印になるものはないろか

避難者女B　確かこの間の防災訓練でみんなに黄色い布を配られんかった？

避難者男A　おお、そういえばあったて、でもなんだか恥ずかしいな。そんな  
こと言ったられんか

星野（防災副会長）　ちよつとみんな聞いてください。どの家を確認したか解  
らなくなることを防ぐため、無事が確認された家には、玄関とか外  
から見やすいところに、防災訓練で配られた黄色い布をかけておい  
てくれるよう伝えてください

避難者女E　確認するっていうけど、何をどう確認してどのように報告するの  
か解らないて。何か確認事項みたいなものってないろか

避難者男D　みんなが避難しているか、いないものは誰かとか、怪我人がいる  
かとかでいいんじゃないろか？

避難者女E　紙とかえんぴつは必要でしょ。みんな戻ってきて口々に防災会長  
さんへ報告してもまとまらんでしょ

避難者女F　おらん家すぐそこだから、紙とえんぴつ持ってくるわ

避難者男D　おれん家にも農作業小屋にあるんだ。持ってくる

下竹沢地区の避難場所（駐在所横の駐車場）では、次々と避難者たちが集まってきた。防災副会長のところには住民からいろいろな相談が寄せられていた。そこへ東（情報伝達班長）がやってくる。

東（情報伝達班長） いやいや遅れて申し訳ねえ。俺は嫁さんと町へ行く途中、家を出てすぐ地震がきてよお、この先で崖が崩れて大きな石が落ちておつて車が通るにはちよつと不安だったんで、途中で止めて嫁と歩いて引き返してきた。町へ行く道はだめろ。車は通れん。

星野（防災副会長） 俺一人では収集がつかないところだったので助かった。今は班ごとに別れて安否確認をしてもらってる。確認済みの家には黄色い布をわかりやすいところにかけておくように指示したところだ。

東（情報伝達班長） 俺の役目は情報伝達班と聞いたが、実際に何をしたらいいのかわからねえ。どうしたらいいか

星野（防災副会長） これから各班から上がってくる情報をまとめてほしい。紙とペンが必要なので用意してくれて。安否が確認できたら、状況を上の集合場所にいる区長に報告してくれて

東（情報伝達班長） よし、わかった。

そこへ避難誘導班長がやって来る

飯田（避難誘導班長） 家の婆さんを近所の丸車庫へ避難させていたので遅くなってしまった。申し訳ねかった。支所のほうに行く道で崖が崩れているのがみえた。あれじゃたぶん通れないだろ

東（情報伝達班長） 俺は長岡方面に行つたろも、長岡方面もでっかい石が落ちてたぞ

飯田（避難誘導班長） そうなると出稼ぎに行っている者や救助隊は長岡からは来ることはできないな。きつと救助が来るのは時間がかかるぞ

星野（防災副会長） 今は一時的にこの場所に集まっているろも、住民の安否が確認できたら、避難所へ移動させないとならん。やっぱり一晩か二晩過ぎすことを考えておかんとだめらなあ

飯田（避難誘導班長） 確か指定避難所は山古志体育館と竹沢保育園だったけど、道路が通れないんじや話にならんで。とりあえず遠くまで歩けない人や障害を抱えた人。寝たきりの人などは、丸車庫へ避難させ

ように。前の地震の時も安全だったし、ただその際は家族や知人を必ずつけて、毛布や着替え、食糧など一日、二日過ごせるだけの準備が必要らな

東（情報伝達班長） どの丸車庫に誰がいるかわからんと、後で救助に行けなくなるれ。場所をチェックして後で見回りに行くようにしたほうがよくないか

星野（防災副会長） そうらなあ。天候も悪くなってきたつけ、ここにずっと居てはまらずいて。昼飯や夕飯は炊き出しして俺たちで何とかしねえとらな。住民もかなり集まってきたし、早く指示を出さないと住民が不安になってしまうて

次々と東（情報伝達班長）へ各班の班長及びリーダーが戻ってきて、安否の確認がされ始めた。忙しそうに情報を収集する東（情報伝達班長）。

避難者男F 彦左衛門さんこのあたりがガス臭かったて。ガス漏れしてるんじゃないだろうか

避難者男A 小林さんは爺ちゃん婆ちゃんの二人暮らしたが、姿が見えなかった。誰か一緒に行つて避難所まで連れてこようて

避難者男D わかった。俺も行く  
東（情報伝達班長） 申し訳ねえ。俺一人では皆さんからの意見を書ききれねえて。ここに紙とペンがあるんだ、どの班で誰の家が確認できなかつたか書いて俺のところへ出すようにしてくれて

飯田（避難誘導班長） 竹沢保育園にいけば紙やペンのほかにホワイトボードなどがあるはずだろも

避難者女E そうよ、保育園に行きましょ。あそこは建物も新しいて

星野（防災副会長） じゃあ、情報伝達班のお前さんはしばらくこの場所に居て、間違つてここに来る人に集落センターだとか支所に行かないようにしてくんねるか。避難誘導班は希望者を竹沢保育園に連れて行ってくんねるか

避難誘導班長 わかった。もう既に行っている人もいるみてえら。ぼつぼつと避難準備した者が歩いて行くのが見える

防災副会長が集まってきた人たちに指示をする

星野（防災副会長） みなさん、私たちの集落の避難場所は「山古志体育館」

と「竹沢保育園」ですが、崖崩れで道路が危険な状態だから、竹沢

保育園を避難所とします。家が大丈夫な方や、家から離れたくない方は、丸車庫などにいたいという方もいるでしょうけど、どこにいるかということも班長さんに必ず伝えておいてください。保育園に行く人は、貴重品と毛布や着替え、食糧を準備し、二、三日ほど避難生活ができるよう準備をお願いします。その前に、家族やお隣さんの安否を確認し、いない方や連絡の取れない方がいたら私に報告をお願いします。また、遠くまで歩けない人、寝たきりの方などはそれぞれ家族で判断し、丸車庫へ同じような準備で待機をお願いします。それと若い方は少しここへ集まってください。地域の安全確認や防犯について相談します。では避難誘導班長の指示に従い、すみやかに竹沢保育園に移動してください。

地区の住民がバラバラと竹沢保育園へ向かう。子供たちは災害の状況がまだわからないため、はしゃいでいる子供もいる。

竹沢保育園にはすでにどこからともなく避難している人たちや、それぞれが持ち寄った鍋ややかんを使って「炊き出し」の準備などがされていた。食材は避難者が各家から持参した野菜や米などが用意されていた。

安否確認から戻ってくる班長やリーダーたちは防災副会長への報告が終わると、保育園や丸車庫に散って行った。防災副会長は下地区の状況を知らせに、上地区の区長に伝令を送った。しばらくして伝令が戻ってくると、竹沢上地区の状況が徐々に分かってきた。どうやら衛星電話があまりうまくつながらなかったらしい。

地震から2時間ほどが経過し、下地区の安否確認が完了したところで、下地区の住民は自宅や丸車庫にとどまる人を除き、竹沢保育園に移動し始めた。保育園には既に救護班が来ていた。

佐藤（救護班）　俺はてつきりここが第一避難場所と思って、家を飛び出してからずっとここに居たて。今になってやっと地区のみんなが集まってきた、事情を聴いて解ったて。申し訳ねえ

星野（防災副会長）　そんなくらの行き違いは前の震災で経験しているて。それより悪いねえ、炊き出しの用意までさせてしもて

佐藤（救護班）　　ここには鍋とかやかんとかがあるし、ガスもプロパンで何とか火を起こせる。みんなが持ってきた畑の野菜で二，三日は食っていられるだろ。

東（情報伝達班長）　星野さん、大変だて。いま地区の人からの話だと、国道二九一も不通だし、町や支所へ行く道もダメだつてや。しばらくは山古志から出られねつてことらて

星野（防災副会長）　わかった。ここが少し落ち着いたら、みんなで長期避難の段取りを相談しようて。電話はまだつながらないけれども、食べ物豊富だし、一週間やそこらの籠城はなんてことねえて

避難者男G　　たつたいま一人暮らしの婆さんを助けてきたて。箆笥が重なつて倒れてて隙間ができて、ちょうど潰されずに済んだようらつた。でも足をくじいたみたいだで、そう遠くへは運べないな。どうしたらいい？

下の一時集合場所で住民を誘導していた避難誘導班長が戻つてきた

飯田（避難誘導班長）　そりや難儀らな。それじゃここから一番近い丸車庫へ運んでくださいて。毛布や水・食料を用意して、二，三日は避難できるようにしようて。だれか知り合いを二，三人一緒につけてくれな

避難者男G　　ゴタゴタしているうちに忘れられたら救助されないかもしれない。不安らなあ。こつちに連れてこれねえか

避難者男A　　よし、俺の家にリヤカーがある。それ持つてくるつけ、そこに婆さん乗せてここまで運ぼうて。電話連絡が取れない場所に二，三日避難なんて心配らて

避難者男Aと避難者男Gはけが人の搬送に向かつた

星野（防災副会長）　東（情報伝達班長）さん、集約した安否確認状況をもとに災害情報をまとめようて。丸車庫へ避難している人たちも掲示板などに書き込み、救助や支援物資の支給に漏れの無いようにしないといけないて

避難者女E　　家じゅうの電気が消えてしまつたて。電話もかけようとしても繋がらなくて。どうやつてここにいない者に連絡をとるんだて

避難者男D 俺の携帯も全然だめだて。全然つながらなくて。こういうときは待つかないんだろか

星野（防災副会長） 電話は携帯もみな不通状態だと思っても、防災ラジオを持っていてのでここから情報を得ることができると聞いたれ

避難者女E それを早く言いなさいて。その防災ラジオはどこにあるんだて

星野（防災副会長） 申し訳ない。家の二階の書斎にあつて、いま家内が取りに行っているて

避難者女E そんなところに置いて、電池はちゃんとあるの？みんなの大事な情報なんだからちゃんとしてくださいて

東（情報伝達班長） 替えの電池はここにも何本かあるんじゃないか。しばらくは大丈夫だて

そこへ防災副会長の妻が防災ラジオを持ってくる。すでにラジオには電源が入っていてラジオが流れている。防災会長はラジオの周波数をFMながおかに合わせる。

FMながおか 「こちらはFMながおか緊急災害放送です。本日午前七時五十分、新潟県中越地方を震源とする強い地震がありました。気象庁の発表によりますと、長岡市や川口町などで震度六強が観測された模様です。地域によっては震度七が発生している可能性もあります。地震の規模はマグニチュード六・八です。新潟県長岡市では同日午前八時三〇分に災害対策本部を設置し、職員が情報の収集にあたっています。揺れの大きかった地域の住民の皆さんへお伝えします。余震で建物が崩れる恐れがあります。危険な建物や崖の近くなどには近づかないてください。大きな余震が起きる可能性があります。繰り返し、建物が崩れる恐れがありますので、危険な建物や崖の近くには近づかないてください。」

防災会長は情報を聞くと、住民に報告をした

星野（防災副会長）

みなさん、これまでの情報を整理すると国道291号線、そして長岡方面と支所方面の道が崩れていて通れない状態だそ

うです。山古志は五年前と同様に孤立してしまいました。道の復旧は前回の地震からもわかるように、二、三日では直せません。そのため、この保育園で二、三日避難し続けることが予想されます。ただ、地区防災センターの山古志体育館へ行けるようになったら、そっちに移動するかもしれません。いま炊き出しの準備をしてもらっている昼ご飯を食べたら、とりあえず暗くなるまえに、避難生活ができるように準備しましょう。救助が来るまで皆で助け合ってください。お願いします。

避難者男F なに言ってる。ここには人が人も運ばれているんだ。どうやってまた運び出すんだ。日が暮れちゃうぞ

佐藤（救護班） 軽トラの荷台に乗せて運ぼう。あとリヤカーもあるし、一輪車にも乗せれるのでみんなで運べばすぐ運べる

避難者女E 支所までの道がダメだとすると、学校も行けない。子供がまだ学校にいるんだ、どうやって連絡とればいいから

東（情報伝達班長） 区長さんの家に非常通信用の衛星電話があるので、そこで支所からの指示を待って行動しましょう。また今日は学校のスポーツ大会で学校に行っている児童が多いと聞きました。支所と連絡が取れば学校の状況もわかるでしょう。

#### 【花子モノローグ】

ようやく近所の人たちと合流し、避難場所が竹沢保育園だと知りました。班の方たちが黄色い布を持って各家々を確認していました。私たちもお爺ちゃんとお婆ちゃんと私の三人で避難場所へ向かいました。お婆ちゃんは近所の人で軽トラで保育園まで運んでくれました。しかし日曜日の朝の出来事とはいえ、若者は休日勤務の人も多く、地域にはほとんどいません。小中学生の子供たちは皆登校しているため、集落の人たちはその子供たちばかりを心配していました。私も市郎と何とかして連絡を取ろうと、携帯のメールを通して中学の親御さんたちへ連絡をいれ続けました。まだメールの返事は来ていません。ちゃんとどいているのかしら？

竹沢保育園には上地区からも住民が避難し始めた。そのとき、災害発生時に上の一時避難場所へ向かった避難者男Cが戻ってくる。

避難者男C 上の集落でも、家々の安否確認やら、救助活動をしてだいぶ状況は分かったようだ。テントが設営されて、役員が集まっている。一応こちらの状況を区長さんへ伝えたら、まとめて支所に衛星電話で連絡すると言った。上の人たちでも自宅に不安のある人は、竹沢保育園に行くようにという指示が出ていた。そこそこ収容できるし二、三日はなんとかなるらしいから、午後から雨が降る前に移動しよう

星野（防災副会長） 御苦労さんだったねえ。本当にありがとう。みんなここに集まっているから、早く家族のところへ行ってあげてください

避難者男D おい、ここに集まってきた人たちは、それぞれ野菜や非常食など各自持ってきているが、そもそもここに備蓄はないのか？前の地震のときみたいに長くなったらどうにもならんぞ。また集落から出るのはこりごりられ

避難者男F 病人の人の対応はどうするんだ？薬が切れたら危ない人もいるかもしれない。早急にけが人や病人の症状を聞いて、支所に連絡しないといかん

避難者女E 土地の人じゃない人も集まっている。たぶん観光客か鯉の買い物客らな。ほら外人も来たわよ。誰か英語話せるの？どうやっていまの状況を伝えて、どうやって避難させるの？誰か担当をつけたほうがいいんじゃない？

防災副会長・東（情報伝達班長） ・避難誘導班長を取り囲んでの住民たちの質問は続く。防災副会長は「とにかく暗くなるまでに体制を整えよう」の一点張り、住民に準備をさせている。

「おれたちはどうなるんだ？」 「学校や支所は無事なのか？食糧はあるのか？けが人を治療する薬はあるのか？」 避難者の不満の声が聞こえる。

### 【花子モノログ】

地震から一時間は、ただ何が何だかわからないまま行動していました。駐在所横の駐車場が一時避難所になってみんなが集まり、安否確認が終わったら、次は竹沢保育園に私たちは移動しました。保育園では各家々から炊き出しに必要な食材の運搬や食器類を出す作業を避難誘導班の人たちと相談し持ちよりました。お昼は保育園でいただくことになり、これから昼食の準備です。普段だったらくたくたに疲れるはずなのに、興奮状態のためか、時間のたつのも忘れ

て準備していました。お父さんは無事だろうか。市郎のいる学校は大丈夫だろうか。副会長さんが持ってきた防災ラジオからは、まだ無事だという連絡がありません。

道子 ママ・・・おなかすいた

地域防災ラジオドラマ

現状とドラマ（フィクション）との相違点

- 二〇〇四年の新潟県中越地震は本ドラマの舞台である新潟県古志郡山古志村（現在の長岡市山古志地区）や北魚沼郡川口町に大きな被害をもたらしました。この地域は地すべり地形といって、斜面が滑動しその上にある構造物に大きな被害をもたらす可能性のある地形が至る所にあります。そこで震災後は非常に広範囲に土留めの工事をしたり、集落によつては集団移転をしたところもありました。今回、山古志地区では二〇〇九年一〇月の防災訓練をするための計画として、地域に起こりうる災害の種類や規模をワークショップで議論し、竹沢集落では前回と同様の直下型地震が発生することを前提としたシナリオをベースに検討を行うことになりました。ただし建物やインフラ（道路やライフライン）は前回の震災後相当に改修・改善が進んでいますので、前回のような壊滅的な被害は出ないだろうという想定で検討することになりました。したがってドラマでは建物が全面的に倒壊するような被害や、地形が大規模に崩落するような被害は出てきません（第二話の最後の「花子」のモノローグをご覧ください）。しかし、屋内で住民が怪我をしていたり、安否が不明で確認が容易でないシーンは登場します。これらはワークショップで議論された地域住民自身によるミクロな被害想定がベースとなっています。
- 中越地震の後、山古志地区ではすべての集落に衛星携帯電話の端末を配備しています。ドラマでは混乱を避けるため各集落からの通信が一定のルールを守ってかけられることを想定しています。実際に災害にあったときに、どの程度このルールに従って通信できるかは未知ですが、ドラマでは現状の通信体制が持つ限界も含めて、わかりやすい形で表現してあります。今後、中山間地における住民の安否確認の問題を考える中で、この課題を解決するさまざまな提案や工夫が出てくることを期待しています。